

# 主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成 ～目的意識をもたす言語活動の工夫を通して～

那覇市立城北小学校教諭 砂川 祥子

## 〈研究の概要〉

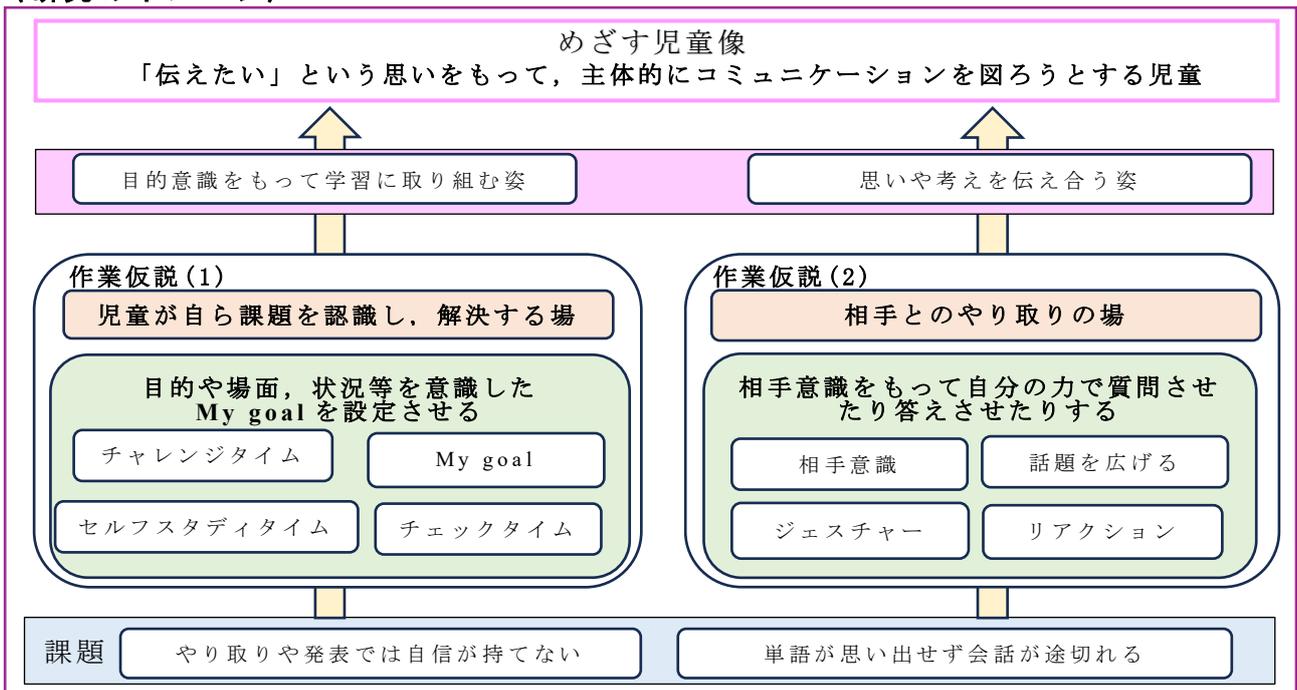
児童の実態として、英語が将来役立つことは理解しているものの、学習を楽しんでいる児童は少ない。また、発表ややり取りでは自信をもてず、単語が思い出せず会話が途切れるなど、既習を活用した実践的なコミュニケーション力に課題が見られた。

そこで本研究では、児童が主体的にコミュニケーションを図ろうとする力を育成するため、単元の終末に「誰かに伝えたい」と思える明確な目標を設定し、その達成に向けて学習に取り組む指導の工夫を行う。そして、実際のやり取りの中で習得した表現を目的に応じて選択・調整する学びの経験を重ねることで、「伝えたい」という思いをもって自分の考えを英語で表現し、主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成を目指した。

単元を通して単元のめあてを掲示し、学級全体で本時の目標を話し合い、個人で My goal をたてる場面を設定することで、目的意識をもって課題を解決するために主体的に表現力を高めようとする姿が見られた。また、対話の場面では、相手の好みを先に確かめ、その反応に応じて伝える内容を切り替えたり、話題を広げたりしながら、相手を意識してやり取りする児童の姿が見られた。

これにより、児童は英語による表現への自信と楽しさを実感し、主体的にコミュニケーションを図ろうとする姿が育まれたと考えられる。

## 〈研究のイメージ〉



## 目 次

I	テーマ設定の理由	51
II	研究目標	52
III	研究仮説	52
	1 基本仮説	
	2 作業仮説(1)(2)	
IV	研究構想図	52
V	研究内容	52
	1 主体的にコミュニケーションを図るとは	
	(1) 外国語における主体的な学びとは	
	(2) 主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童とは	
	2 目的意識をもたす言語活動の工夫とは	
	(1) 目的意識をもたすとは	
	(2) 言語活動が成立するための条件	
	(3) 言語活動を活性化する場の工夫	
VI	授業実践(第5学年)	55
	1 単元の概要	
	2 本単元の指導と評価計画(全7時間)及び本単元に係る学習の系統	
	3 本時の指導	
	(1) 目標	
	(2) 授業仮説	
	(3) 本時の展開	
VII	結果と考察	57
	1 作業仮説(1)の検証【結果】【考察】	
	2 作業仮説(2)の検証【結果】【考察】	
VIII	成果と課題	60
	1 成果	
	2 課題	

《主な参考文献》

## 主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童の育成 ～目的意識をもたす言語活動の工夫を通して～

那覇市立城北小学校教諭 砂川 祥子

### I テーマ設定の理由

社会のグローバル化が進展する中で、児童には多様な価値観や文化を理解し、自分の考えを適切に伝えるコミュニケーション能力が必要である。その重要性は、ますます高まっており、小学校教育においても言語活動を通じた主体的な学びの工夫が求められている。こうした背景から、コミュニケーション能力育成の必要性は一層高まっている。

小学校学習指導要領解説外国語編(以下、解説外国語編)においては、「児童が興味をもって取り組むことができる言語活動を易しいものから段階的に取り入れたり、自己表現活動の工夫をしたりするなど、様々な手立てを通じて児童の主体的に学習に取り組む態度の育成を目指した指導をすることが大切である。」と示されている。このように、児童に主体的にコミュニケーションを図る態度を育むには、言語活動を工夫し、ペアやグループでのやりとりや発表を通して、英語で思いを伝え合い、伝える楽しさや必然性を実感させることが大切である。

本学級の児童は、令和7年度沖縄県児童生徒質問調査「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つ」の質問に89.7%が肯定的回答をした。しかし、「英語の勉強は好きだ」の質問では肯定的回答は63%にとどまった。このことから、多くの児童が英語の必要性を理解している一方で、学習そのものを楽しむ児童は少ないことがわかる。今後は、英語の実用性だけでなく、学ぶ楽しさも感じられる工夫が求められると考える。

これまでの実践では、児童が学んだことを使って考えを伝える場を設定し、一人やペア、グループなど学習形態を工夫してきた。しかしやり取りや発表では、うまく話せない児童や意欲的でない児童も見られた。使う場の工夫や支援が十分でなく、自信を持って話すことが難しかったと考えられる。また、児童が外国語で話そうとする意欲は見られるものの、単語が思い出せず会話が途切れてしまう場面も多く見られた。これは、単語の習得に重点を置いた指導に偏り、言語活動を通して、児童が既に知っている英語を活用し、実際のコミュニケーションを図ることを重視した授業設計が十分でなかったことが要因と考える。

そこで本研究では、児童が主体的にコミュニケーションを図る力を育成するために、単元の終末に「誰かに伝えたい」と思えるような明確な目標を設定し、その目標に向かって日々の学習を積み重ねていく指導の工夫を行うこととした。学習の過程で、習得した表現を実際のやり取りの中で活用する経験を積ませることで、児童は自信をもって自分の考えを伝えようとするようになり、英語での主体的なコミュニケーションを図ろうとする児童の育成につながると考え、本研究テーマを設定した。

## II 研究目標

主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童を育成することを目指し、目的意識をもたす言語活動を工夫する実践的な研究を行う。

## III 研究仮説

### 1 基本仮説

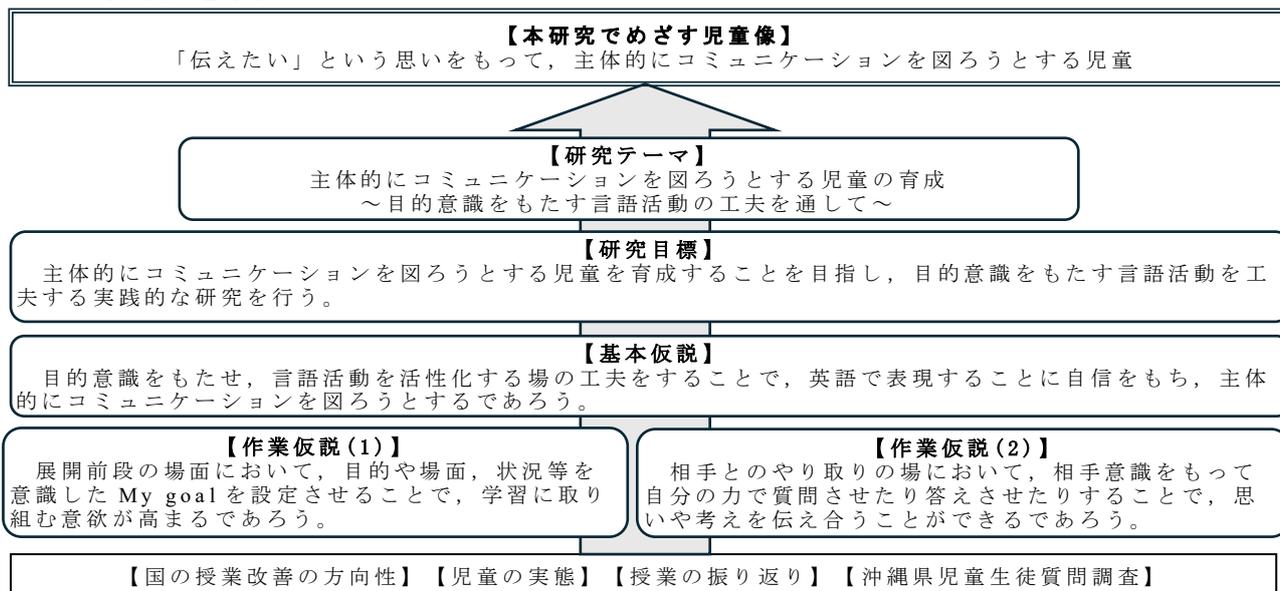
目的意識をもたせ、言語活動を活性化する場の工夫をすることで、英語で表現することに自信をもち、主体的にコミュニケーションを図ろうとするであろう。

### 2 作業仮説

(1) 展開前段の場面において、目的や場面、状況等を意識した My goal を設定させることで、学習に取り組む意欲が高まるであろう。

(2) 相手とのやり取りの場において、相手意識をもって自分の力で質問させたり答えさせたりすることで、思いや考えを伝え合うことができるであろう。

## IV 研究構想図



## V 研究内容

### 1 主体的にコミュニケーションを図るとは

#### (1) 外国語における主体的な学びとは

中央教育審議会答申の「幼稚園，小学校，中学校，高等学校及び特別支援学校の学習指導要領等の改善及び必要な方策等について」（平成28年12月21日）（以下、中教審）では、「『主体的な学び』の過程では、外国語を学ぶことに興味や関心を持ち、どのように社会や世界と関わり、学んだことを生涯にわたって生かそうとするかについて、（中略）自らの学習のまとめを振り返り、次の学習につなげることが重要である。」と示されている。

本研究では、展開前段の場面や終末場面で、自分の学習状況を振り返り、次の学習につなげることができるようにしていく。

## (2) 主体的にコミュニケーションを図ろうとする児童とは

解説外国語編において「『外国語によるコミュニケーションにおける見方・考え方』とは、外国語によるコミュニケーションの中で、どのような視点で物事を捉え、どのような考え方で思考していくのかという、物事を捉える視点や考え方であり、『外国語で表現し伝え合うため、外国語やその背景にある文化を、社会や世界、他者との関わりに着目して捉え、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて、情報を整理しながら考えなどを形成し、再構築すること』」と示されている。

そこで本研究では、外国語の知識習得だけでなく、自分の意見や考えを発信し、他者との対話を通じて学びを深める児童を目指す。そのために、単元の導入から終末までを通して、児童が目的や場面、状況等を意識させながら学習を進め、言語活動を工夫する実践を行う。

## 2 目的意識をもたす言語活動の工夫とは

### (1) 目的意識をもたすとは

直山(2021)は「言語活動はごっこ遊びではなく、本当の自分の考えや気持ちを伝え合う本物の場面設定が必要である。また、場面設定を明示することで、児童にコミュニケーションを行う『必然性』が生まれる。指導に当たっては、児童がコミュニケーションを行う『目的意識』をもつことができるよう、『何のために尋ね合うか』『どんな場面でのやり取りか』等について、その場面の状況を具体的にイメージ出来るように提示を工夫したい。」と述べている。このことから、考えや気持ちを伝え合う力を育てるには、必然性のある場面設定が効果的である。

そこで本研究では、場面設定を明確にする手立てとして、「振り返りシート」を活用し、単元の導入時に学習の目的を明確に理解させていく。また、①単元目標を全体で確認したあと、振り返りシートに②Today's goal, ③My goalを考えさせる

表1 目的意識を高める三つの目標  
直山(2021)を参考に筆者作成

①	単元目標 (単元を通して育成を目指す資質・能力)
②	Today's goal (本時における学習のめあて)
③	My goal (本時のめあての達成に向けた個人のめあて)

(表1)。そうすることで、児童は設定された場面をイメージし、目的意識をもって学習に臨むことができると考える。また、終末場面でも振り返りシートを活用することで、児童は自身の学習過程や理解の程度を客観的に捉え、自ら課題を認識して改善をしながら主体的に取り組んでいくと考える。

### (2) 言語活動が成立するための条件

直山(2021)は、「児童が思考を働かせ、考えや気持ちを伝え合う言語活動の実現には、児童が『話したい』と思うような、『何をどう話そうか』と考えたくなるような目的や場面、状況などの設定が不可欠です。(中略)題材は学級の児童全員が興味・関心をもち、身近で具体的なものにすることが望ましいと考えられます。」と述べている。また、このような言語活動を成立させるためには、次の4つの要素が必要だと述べている。①伝え合う目的や必然性がある。②相手意識をもって取り組むことができる。③実際に自分や相手の気持ちや考えを伝え合う「本物」のコミュニケーションである。④伝え合うことの喜びや意義を見出すことができる(表2)。

本研究では、第5学年「Unit 8 Let's go to Singapore.」で日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする学習を行う。その学習において、児童に「自分の行ってみたい国に友達を誘う」という目的意識をもたせ活動させていく中で、様々な言語材料を身に付けさせていく。また、実際の児童同士のやり取りの中で、習得した表現を目的に応じて選択・調整する学びの経験を重ねさせることで言語活動の充実を図る。

表2 言語活動成立の4つの要素  
直山(2021)を参考に筆者作成

	言語活動成立の4つの要素	本研究における場面設定
①	コミュニケーションを行う目的や必然性	行ってみたい国に友達を誘う
②	相手意識	相手が好きそうな国の魅力を選んで紹介する
③	本物のコミュニケーション	対話の場面で自分や相手の気持ちや考えを伝え合う
④	伝え合う喜び、意義	伝え合い、言葉やリアクションなどで反応する

### (3) 言語活動を活性化する場の工夫

直山(2021)は、「自分自身でどのくらい学習が進んでいるかを確認し、自ら課題を認識して改善を図ることができるようにすること、すなわちメタ認知による学習調整を図ることができるようにすることが大切である。そこで、中間指導を行い、前半の活動を振り返って課題を見つけたり、友達のよい例からその解決策や新たな目標を見出したりすることができるようにする。自分で手掛かりやめあてを見つけることで、学習意欲が高まる効果もある。」と述べている。そのため、児童自ら課題の解決策を見つけたり、新たな自分の目標を見出したりできるような学習調整の時間設定をする必要がある。

本研究では、「チャレンジタイム」「My goal」「セルフスタディタイム」「チェックタイム」の4つの時間を設定することで、児童が自ら課題を認識し、解決する機会につなげていく(図1)。その4つの時間においては、図1に示すように場の工夫や教師の支援を行うことで言語活動の活性化を図っていく。

そして、4つの時間を設定することで、児童は学習の調整という、児童が自らの学習を振り返り、課題を捉えて改善する学習となり、言語活動を活性化することにつながると考える。

活動の流れ	期待する児童の姿	場の工夫	教師の支援
 チャレンジタイム	学習の到達状況を確認し、その時間の目標を明確にし、自己理解をする姿。	授業導入時に設け、児童自らの理解度やできていること、課題を把握する時間。	Small talk でその時間の見通しをもたせ、課題を見つけさせる。
My goal	本時のめあてを基にして自分のめあてを考える姿。	本時のめあての確認後に、本時で身に付けたい自分のめあてを考える時間。	本時のめあてを基に自分のめあての設定ができない児童に対して、課題に気付かせる。
セルフスタディタイム	児童の課題や関心に応じて学習方法を選択・調整する姿。	単語や文法学習後に、それぞれの児童がさらに学びたい内容を選び、自主的に学習を深める時間。	児童が自主的に学習を進めることができるように、自分に合った学習方法を選択させる。
チェックタイム (中間指導)	自分の学習状況を振り返って、改善しようとする姿。	児童の理解が不十分な点やつまづきを学級全体で共有し、教師や友達とともに理解を深める時間。	児童に学習の調整方法を気付かせたり、考えさせたりする。場合によっては、教師が具体的に支援する。

図1 言語活動を活性化する場の工夫と教師の支援

## VI 授業実践(第5学年)

### 1 単元の概要

単元名	Unit8 Let's go to Singapore.
内容のまとめ	第5学年 Unit8 ウ「話すこと(やり取り)」 日常生活に関する身近で簡単な事柄について、自分の考えや気持ちなどを、簡単な語句や基本的な表現を用いて伝え合うことができるようにする。
単元のめあて	友達に、自分も行ってみたいと思ってもらえるように、行ってみたい国について紹介することができる。

### 2 「本単元の指導と評価の計画(全7時間)」及び「本単元に係る学習の系統」

学習の系統(前)	第5学年 She can sing well.
----------	-------------------------



時	■主な学習活動	□指導上の留意点	【評価項目】(評価方法)
1	<b>1 単元目標の確認</b> ■課題意識を持つ。 ■行ってみたい国を聞き取る。 ■行ってみたい国をたずねたり答えたりする表現を練習する。	□目的、場面、状況の具体的な目的意識を持たせる。 □行ってみたい国を言う表現を伝える。 □行ってみたい国を決める。	【態】単元の見通しを持つことができる。(行動観察・振り返りシート)
2	<b>2 行ってみたい国をたずね合う。</b> ■行ってみたい国を書き写す。 ■アルファベットを書き写す。	□行ってみたい国をたずねたり答えたりする表現を復習させる。 □世界遺産、有名な食べ物、特産物等にふれるように伝える。 □6つの動詞の意味を伝える。	【知】国名を表す語句を書き写している。(教科書)
3	<b>3 外国でできることを言う表現を知る。</b> ■外国でできることを言う語句や表現に慣れ親しむ。 ■行ってみたい国に誘う表現を練習する。 ■行ってみたい国とそこでできることを考える。調べる。	□行ってみたい国に誘う表現を練習させる。 □色々なリアクションがあることを伝える。 □自分が行ってみたい国について、調べ学習をさせる。(ICTを活用して個人の資料作成をさせる。)	【思】行ってみたい国やそこでできることについて聞き取り、ペアで分かったことを伝え合っている。(行動観察・振り返りシート)
4	<b>4 行ってみたい国や、そこでできることを伝える。</b> ■行ってみたい国やそこでできることを聞き取る。 ■行ってみたい国に誘う表現を復習する。 ■行ってみたい国やそこでできることを伝え合う。	□行ってみたい国に誘う表現を練習させる。 □ペアで行ってみたい国やそこでできることを伝え合わせる。 □色々なリアクションがあることを伝える。再確認。 □自分が行ってみたい国について、調べ学習をさせる。(ICTを活用して個人の資料作成をさせる。)	【思】行ってみたい国やその国の魅力について調べ、ペアやグループで分かったことを伝え合っている。(行動観察・振り返りシート)
5	<b>5 ペアで自分の行ってみたい国を伝え合う。</b> ■行ってみたい国に誘うために必要な語句や表現を復習する。 ■伝えるときの工夫を考える。 ■行ってみたい国とそこでできることをペアで伝え合う。 ■グループで発表シートをまとめて作る。	□行ってみたい国に誘うために必要な語句や表現をふり返る。 □リアクションについて伝える。 □グループで伝えたいことがかぶらないように話し合っておく。 □行ってみたい国について、調べたことをまとめさせる。(ICTを活用しグループの資料作成をさせる。)	【態】行ってみたい国やその国の魅力をペアに英語で表現しようとしている。 (行動観察・振り返りシート) 【思】行ってみたい国やその魅力について、基本的な表現を用いて表すことができる。(行動観察・振り返りシート)
6 本時	<b>6 自分の行ってみたい国に友達を誘う。</b> ■行ってみたい国に誘うために必要な語句や表現を復習する。 ■友達にも行ってみたいと思ってもらえるように工夫して、行きたい国に友達を誘う。	□自信をもって伝えることができるように、グループで協力させる。  Let's go to ~. We can visit ~. We can eat ~. Do you like ~?	【思】※記録に残す評価 行ってみたい国やその魅力について、基本的な表現を用いて表すことができる。(行動観察・振り返りシート) 【態】※記録に残す評価 行ってみたい国やその国の魅力をグループで協力して他のグループに主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。(行動観察・振り返りシート)

7	<b>7 4年生と交流する。</b> <b>■グループで協力して発表する。</b> <b>■学習してきたことを振り返る。</b>	<input type="checkbox"/> 行ってみたい国について4年生に発表させる。 Let's go to ~. We can visit ~. We can eat ~.	<b>【知】</b> ※記録に残す評価 基本的な表現を用いて、行ってみたい国に誘うことができる。 (行動観察・振り返りシート)
---	--	--	---



学習の系統(後)	第6学年	Welcome to Japan.
----------	------	-------------------

### 3 本時の指導

#### (1) 目標

自分の行きたい国に相手を誘うために、行きたい国やその魅力について、簡単な語句や基本的な表現を用いて自分の意見を相手に伝えようとしている。

#### (2) 授業仮説

- ①展開前段において、目的や場面、状況等を意識した My goal を設定させることで、目的意識をもって主体的に学習に取り組むことができるであろう。
- ②相手とのやり取りの場において、相手意識をもって自分の力で質問させたり答えさせたりすることで、相手の反応に合わせて思いや考えを伝え合うことができるようになるであろう。

#### (3) 本時の展開

段階	主な学習活動	・指導上の留意点 ◆予想される児童の反応 □JTE の役割	【評価項目】 (評価方法)
導入 5分	1 (A)単元のめあての確認。 2 Small talk で学習する語句や表現に触れる。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・目的、場面、状況の具体的な目的意識を持たせる。</li> <li>□学習のモデル(担任とJTEの会話)を見せる。                Let's go to ~.                We can [visit/see/eat/drink/watch/buy] ~.                It's great! / nice / good /                That's nice. /wonderful. /Sounds good.</li> </ul>	
展開前段 15分	3 チャレンジタイム 行ってみたい国についてペアで伝え合う。 4 めあてを確認する。 (B) Today's goal (C) My goal の確認 5 ジングルやチャンツを使って表現の復習をする。 6 セルフスタディタイム 7 チェックタイム(中間指導)	<ul style="list-style-type: none"> <li>◆チャレンジタイムで自分の出来ることと課題を知る。</li> <li>・電子黒板を使い、ブレンストーミングで本時にやることの共有をする。</li> <li><b>めあて 自分の行ってみたい国に友達を誘おう。</b></li> <li>・行きたい国に誘う表現とそこでできることを言う表現をジングルやチャンツを使って繰り返す。</li> <li>・リズムに合わせて自分が話すことを復習する。</li> <li>□担任とJTEは教室をまわり困っている児童にアドバイスをする。</li> <li>・困っていることを全体で共有し課題解決に向かう。</li> <li>◆誘うときの言い方が分からない。</li> <li>◆リアクションで何て言えばいいだろう。                That's nice. That's wonderful. Sounds good.</li> </ul>	
授業仮説(1)	言語活動成立の要素 ①コミュニケーションを行う目的や必然性 ②相手意識		
展開後段 20分	8 グループで協力して行きたい国へ友達を誘う。 ○交流(1) ○全体で気付いたことの共有 ○交流(2)	<ul style="list-style-type: none"> <li>・どのような流れか全体で共通理解をする。説明。</li> <li>・友達にも行ってみたいと思ってもらえるように工夫して、行きたい国に友達を誘う。                Let's go to ~. We can visit ~.                We can eat ~.                Do you like ~? We can ~.Let's go to ~.</li> <li>◆練習してきた通りに伝えることができた。</li> <li>・先に質問をして相手の好みを知るとは、誘う手立てに有効だということを確認する。</li> <li>・紹介し合う前にグループ同士を担任が決めておく。</li> <li>【「努力を要する」状況と判断される児童への支援】                これまでの学習を振り返り、グループで協力して伝え合っているように促していく。</li> </ul>	<b>【思】</b> 行ってみたい国やその魅力について、基本的な表現を用いて尋ねたり答えたりして伝え合っている。 (行動観察・振り返りシート) <b>【態】</b> 行ってみたい国やその国の魅力をグループで協力して他のグループに主体的に英語を用いて伝え合おうとしている。(行動観察・振り返りシート)
授業仮説(2)	言語活動成立の要素 ③本物のコミュニケーション ④伝え合う喜び、意義		

段階	主な学習活動	・指導上の留意点 ◆予想される児童の反応 □JTE の役割	【評価項目】 (評価方法)
終末 5分	9 振り返りシートに本時の学習を振り返り、次時の見通しをもつ。	・本時のめあてに対してどれだけできたか、自己評価する。 ◆何度も練習をしたし、グループで協力しているから安心。 ◆先に質問をすると、相手の好きか嫌いかわかってから紹介することができたのでよかった。 ◆自分の考えに共感してくれて嬉しかった。	

## Ⅶ 結果と考察

### 1 作業仮説(1)の検証

展開前段の場面において、目的や場面、状況等を意識した My goal を設定させることで、学習に取り組む意欲が高まるであろう。

#### 【結果】

児童の振り返りからは、達成感と次の活動への意欲が記載されている内容が多くあった。めあてを基に振り返ることで学習の目的や場面、状況等を意識し、相手を意識した発話や主体的なやり取りが増えた。また、単元終末を見通して学習に取り組む姿も見られた。3時目以降は、国名に加えて魅力も伝えられるようになり、相手の反応に応じたやり取りや表現の工夫も見られた。さらに、次時へ向けて意欲が表れる振り返りが書かれるようになり、表情やジェスチャーを工夫したりすることを次の目標としていた(表3)。

表3 目的意識がいかされたA児の振り返りの変容

単元のめあて		友達に、自分も行ってみたいと思ってもらえるように、行ってみたい国について紹介することができる。	
時	My goal	振り返り	見取り
1	行ってみたい国名を覚えよう【目的】	→ 今日めあての行ってみたい国名を言えるように練習しました。英語で国名を言うのは難しかったけど言えて嬉しかったです。	達成感
2	行ってみたい国の言い方を覚えよう【目的】	→ 今日行ってみたい国をたずね合いました。前回は言えなかったたずねる言い方も言えるようになりました。	達成感
3	行ってみたい国の魅力の伝え方を覚えよう【状況】	→ 今日国名を言うだけでなくその国の魅力の伝え方も知りました。伝え方は覚えたから次は魅力を調べて言えるようになります。	次の活動への意欲の高まり
4	リアクションの言い方を覚えよう【状況】	→ 今日の授業では、国の魅力の伝え方に加え、リアクションの言い方も習いました。どのときにどんなリアクションをすればいいのか分からないからそこをやってみよう。	次の活動への意欲の高まり
5	リアクションを覚えて、さらに楽しそうに言えるようにしよう【状況】	→ 今日の授業では、魅力の伝え方をもっとよりよくするために楽しそうに言ったりしました。次の授業もがんばりたいです。	次の活動への意欲の高まり
6	友達を説得できるようにジェスチャーも交えながら言おう【状況】	→ 今日の授業で自信ができました。でも、My goal のジェスチャーはできなかったから気をつけたいです。	自信
まとめ	グループ学習では、自分の意見だけではなく、みんなの意見も取り入れることで、さらにもっと良くなったり、相手とのやり取りの工夫も出来るようになりました。マイゴールがあることで、自分の今のレベルが分かりやすくなりました。4年生との交流では、表情をやわらかくし、リラックスしながら発表できるようにしたいです。		次の活動への意欲の高まり

目的や場面、状況等を意識させたことで、「できたこと」や「気付いたこと」などの振り返りに付け加え、1時目では、その時間に頑張ったことのみを振り返っていたのが、4時目では、「できたこと」と「具体的に相手に聞きたいこと」を書いており、相手を意識した振り返りへ変わった(表4)。

表4 コミュニケーションを図ることへの意識の高まり

	時	振り返り（相手を意識し、次の学習へつなげようとしている）	変容
B児	1	だいたい国は語尾が上がっているのが日本語と違うからチャンツを聞いてがんばりました。	頑張ったことのみ
	4	私も食べてみたいの言い方が分からなかったから次は言えるようにしたいです。今日は「good」とちゃんとリアクションをすることができました。「Do you like～」と言えなかったから聞けるようにしたいです。	相手意識と次の活動への意欲の高まり
C児	3	みりよくの伝え方を言えるようになったけどまだ言いにくい。	課題中心
	6	みりよくの伝え方も前よりうまくすらすら言えるようになったので、4年生にもちゃんと伝わるように工夫したり質問をいっぱいしようと思った。	単元終末への意欲
D児	3	自分の行きたい国のみりよくを言えるようになりたいです。	課題中心
	4	私は自分のゴールを少しだけ達成することができました。でももっとたくさんのリアクションを言えるようにしたいです。	相手意識と次の活動への意欲の高まり
E児	1	今日は行きたい国の国名を言えるようにがんばりました。かんこくはコリアを言いました。	頑張ったことのみ
	4	今日はリアクションが言えるようになりました。相手に好きか嫌いかを聞けました。次はもっとレベルアップしたいです。	成長と次の活動への意欲

セルフスタディタイムでは、チャンツを使いながら質問の仕方や答え方をリズムに乗って練習をする姿や、ジングルを使って単語の練習をする姿、英和辞典を使って調べ学習をしている姿、担任やJTEに聞いて学ぶ姿などが見られ、それぞれが学習方法を選びながら学びを進めていた。

アンケート結果からは「英語の授業は好き」と検証後に肯定的に答えた児童は、37%増加した。また、英語の授業が好きな理由を「グループで伝え方を工夫した」や「伝わるのが楽しかった」と書いていた(図2)。

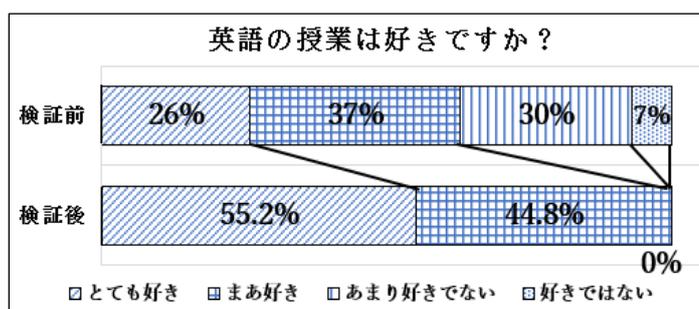


図2 検証前と後の気持ちの変化（アンケート）

【考察】

My goalを設定させたことで、児童は学習の目的や見通しを意識し、意欲的に取り組む姿が見られた。また、児童が自らめあてを設定し振り返ることで、達成感や課題を自覚し、相手を意識したコミュニケーションを図ろうとする意欲の高まりにつながった。

セルフスタディタイムの様子から、児童は主体的に学び方を選び、理解を深めようとしていることが分かる。特に、モデルの活用やリズムを用いた活動は言語の定着を助け、主体的に学ぶ態度の育成に有効であると考えられる。

また、検証前には、英語の授業に対して否定的な意識をもつ児童が37%見られた。これは、学習の目的や場面が十分に共有されず、活動の意義を捉えにくかったことが一因であると考えられる。本検証では、毎時の導入で「誰に・どこで・どのように」伝えるかを明確に示したことで、児童は単元終末の活動を見据えて学習に取り組むようになった。そのため、目的意識をもった主体的な学習態度が育成され、英語の授業を肯定的に捉える児童が100%に達したと考えられる。

## 2 作業仮説(2)の検証

相手とのやり取りの場において、相手意識をもって自分の力で質問させたり答えさせたりすることで、思いや考えを伝え合うことができるであろう。

### 【結果】

場面①において、児童は、相手の理解状況に応じてジェスチャーや写真を用いて工夫し、自分の力で質問したり応答したりする姿が見られた。また、相手が答えやすいように質問内容を調整し、やり取りを続けようとする姿が見られた。場面②において、児童は、相手の興味・関心を引き出す質問や、詳しく知ろうとする質問を工夫しながらやり取りを行い、会話を広げ深めようとする姿が見られた。さらに、共通の話題をもとに楽しさを共有し、活動を発展させる様子が見られた(表5)。

表5 G・H・Iグループが J・Kグループへ提案するやり取り

〈本時のめあて〉自分の行ってみたい国に友達を誘う			
	G・H・Iグループ	J・Kグループ	教師の見取り
	G・H・I: Hello. Let's go to France. G: We can visit Eiffel tower. (ジェスチャー) H: It's beautiful.	K: Nice! (拍手)	
場面①	H: We can watch fencing game. (ジェスチャーを交えながら、相手の理解を促すため、写真と併せて伝えている。) H: <u>Do you like sports?</u>  H: OK! Yes!	(J: フェンシングが分からないような表情をする)  J: Yes, I do. I like sports.	<ul style="list-style-type: none"> <li>・相手が分からないことに気づき、自ら工夫してやり取りをしようとしている。</li> <li>・相手が困ったため、答えやすい質問を考えている。</li> </ul>
	H: We can buy Eiffel tower key ring. G: It's cute. H: Do you want key ring?  T: うん! (嬉しそうにうなづく)	J: <u>Yes, I do. I want key ring.</u>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・好きと答えるだけでなく、自分の気持ちをはっきり伝えたいという思いで具体的に答えている。</li> </ul>
	I: We can drink La France juice. I: Do you like juice?	J: Yes, I do. I like juice.	
	I: We can see alps mountains. G: good. G: <u>Do you like natural?</u> (友達に自然って英語で何て言うんだっけ?と聞き、即興で質問を考えている) G: Yes! (嬉しそうにうなづく)	J: Yes, I do.	<ul style="list-style-type: none"> <li>・伝えたいことがあり、会話を続けたいが、単語が分からないため言葉を探している。</li> </ul>
場面②	H: <u>We can eat macaron.</u> H: <u>Do you like sweets?</u> (相手の興味・関心を引き出すための質問の工夫をしている) H: <u>What sweets do you like?</u> (さらに相手のことをより知ろうとする質問の工夫をしている) G・H・I: oh! よっしゃー! (嬉しそうにガッツポーズ) G・H・I: Let's go to France.	J・K: Yes, I do.  J: I like macaron.  J・K: Yes!	<ul style="list-style-type: none"> <li>・話題を広げ、具体的に何が好きか質問し、会話を深めようとしている。</li> </ul>

振り返りシートからは、I 児は、リアクションを返したり、質問を変えて相手の興味をひきつけたりすることができたと振り返っている。また、4年生との交流に向けて、相手が楽しめるように質問を工夫したいと述べている(表6)。B 児は、グループ学習で互いに聞き合ったり、発表をカバーしたりするなど、自らの力でやり取りを行っている振り返りが見られた。また、相手の興味に合わせて質問の内容を変えることができたと振り返っている(表7)。

表6 相手意識が見られる振り返りシート(I 児)

私はいつも色々なマイゴールを立てたり達成したりして自信につながった。授業が楽しくなりました。また、グループ学習でリアクションを返せて嬉しかったです。あと、質問を変えて、相手の興味をひきつけることもできました。4年生との交流に向けては、4年生が楽しめるように、質問で相手の興味をひいて行ってみたいと言ってもらえるようにしたいです。

表7 相手意識が見られる振り返りシート(B 児)

マイゴールがあることで、その時間の目標ができて、集中して授業できました。グループ学習では、お互いに聞いたりたずねたりして、協力できました。また、グループ同士で発表したときにもカバーすることができました。質問をするときに、スポーツが好きなのか、サッカーや野球だけが好きなのかで質問を変えることができました。4年生への発表に向けて、リアクションや動きなども入れてみたいし、外国の人に日本の魅力を紹介してみたいとも思いました。

## 【考察】

相手意識をもってやり取りを行うことで、児童は相手に応じて表現や質問を工夫し、会話を広げたり深めたりする姿が見られた。これにより、自分の考えを分かりやすく伝え、相手の立場に立ってやり取りする力が高まったと考える。

対話の場面において、目的や場面、状況等具体的な目的意識を共有しながら学習を進めることで、意味の通じやすさや相手意識を重視する姿勢につながったと捉える。

振り返りからは、相手の興味や反応を意識して質問を工夫したり、リアクションを返したりしながらやり取りを行っていた。このことから、相手意識をもって自分の力で質問したり答えたりする活動を通して、思いや考えを伝え合おうとする姿につながったと考える。

## Ⅷ 成果と課題

### 1 成果

- (1) My goal を設定させることで、児童は目的意識をもって資料や表現を工夫するなど学習に取り組む意欲の高まりが見られた。
- (2) 相手意識をもって自分の力で質問させたり答えさせたりすることで、話題を切り替えたり広げたりするなど、思いや考えを伝え合うことができた。

### 2 課題

- (1) 目的意識が不明確な児童には、My goal におけるめあてを設定させる際に、前時の活動から課題に気付かせたり困っていることを支援したりするなど配慮が必要である。
- (2) 自分の思いや考えを伝え合うことが難しい児童には、これまでの学びの蓄積を振り返り、自分の力で質問したい内容を支援する必要がある。

## 《主な参考文献》

- |                                   |       |     |      |
|-----------------------------------|-------|-----|------|
| 『小学校学習指導要領(平成29年告示)解説 外国語活動・外国語編』 | 文部科学省 | 開隆堂 | 2017 |
| 『小学校外国語教育の指導と評価』                  | 直山木綿子 | 文溪堂 | 2021 |